

■北海学園大が1回戦敗退。全日本大学選手権

全日本大学アメリカンフットボール選手権の1回戦が11月9日、岐阜市の長良川競技メドウほかで行われ、北海道代表の北海学園大は0-64で東海地区代表の中京大に敗れた。2009年から始まった同選手権で、北海道代表の初白星はまたも持ち越しとなった。

2021年大会以来3年ぶり3回目の全日本挑戦となった北海学園大。北海道学生選手権を5戦全勝で制した多彩な攻撃と手堅い守備で初戦突破の期待がかかったが、試合は終始、中京大に主導権を握られる展開となった。

第1Q3分、キックオフリターンからの中京大の最初のドライブで先制の18ヤードTDランを許すと、同7分には22ヤードQBキープで追加点を奪われて0-14。続くキックオフリターンで北海学園大がファンブルすると、攻撃権を得た中京大に36ヤードTDパスを決められて0-21。同11分には、インターセプトで攻撃権をつかんだ中京大に16ヤードパスTDを追加され、第1Qだけで0-28とリードされた。第2Qも2TDとFGを決められ、前半を0-45で折り返した。第3Qも中京大の3番手RBにTDランを許して0-51、第4Qもパスとランで2TDを追加されて0-64とされた。警戒していた中京大の平均184・4センチ、100・8キロの攻撃ラインに力負けし、大量失点につながった。



北海学園大は第1QにQB成田滉佑（3年、札幌白石高）のキープとQB成田滉からRB高杉武生（4年、浦河高）へのパス、第2QにはQB成田滉からWR五十嵐勇星（1

年、札幌啓成高)へのパスで2回、第4QにQB成田滉からRB高杉へのパスとQB成田滉のランで第1ダウンを更新したが、要所でパスインターセプトやファンブルなどミスが相次ぎ、自慢の攻撃力を生かせなかった。守備チームも主将のOL/DL成田陽斗(4年、東京・隅田川高)がロスタックルを浴びせ、第3Q9分にDLとLB陣が中京大の第4ダウンギャンプルのランを止めた。第4Q7分にはDB柴田一世(4年、札幌白石高)がインターセプト、終了間際の同11分にはWR加藤真之助(3年、札幌藻岩高)の34ヤードキックオフリターンで自陣44ヤードまで運んだが、後が続かなかった。



高木幸樹HCは「完敗。予想を上回ってやられた。ラインはプレースピードの差が出た。克服するには、北海道で勝ち続け、毎年この舞台に出てくる必要がある」と巻き返しを誓った。ロスタックルでチームを鼓舞した主将のOL/DL成田陽は「キャプテンとしてもっとこういうプレーをしなければいけなかった」と悔しがり、守備リーダーのLB池原響生(4年、伊達緑丘高)は「RBとの1対1も相手が強かった。北海道にないレベルだった」と全国との差を実感。インターセプトのDB柴田も「意地のインターセプトだった。後輩には来年、東海代表を破って次のステップに進んでほしい」と託した。

3年生選手たちは「来年、またこの舞台に戻ってくる」(QB成田滉)、「来年は自分が引っ張り、この舞台で印象に残るプレーをする」(WR八乙女凌太郎)、「絶対にここに戻り、キックリターンから圧倒したい」(WR加藤)、「全国のレベルを知った。来年はもっと強くなる」(LB樺田裕丈)と雪辱を誓っていた。(広報委員 塚田博)